ウガンダJICA海外協力隊派遣20周年　2021年8月3日

隊員インタビュー

今年の7月で、ウガンダに最初の青年海外協力隊が派遣されてから20年が経ちました！JICA海外協力隊派遣20周年を記念し、現在ウガンダに派遣されている5名の隊員のインタビュー記事をお届けします。取材当時（7月）はウガンダはロックダウン中で、隊員の皆様は任地を離れて首都待機していたため、第1回は任地に戻ったら取り組みたいことを紹介したいと思います。次号以降では、協力隊への参加に至った経緯、協力隊受験の準備、任地でのストレス発散方法等について発信する予定ですので、ぜひお楽しみに！

～第1弾：任地に戻ったら取り組みたいこと～

ウガンダの体育を牽引する存在に

今年3月に1年ぶりに任地に戻ったところ、同僚の変わらないモチベーションに感心しました。同僚の能力が非常に高いため、ウガンダの体育を引っ張っていく存在になれるよう、他の学校の教師に教える機会を作りたいと考えています。

首都から30分離れたワキソ県の中高等学校で活動中の盛島加菜さん（職種：体育）　◆授業後にパシャリ

◆道端でよく見かけるアフリカハゲコウ

科学の楽しさに気づいてもらいたい

ウガンダは学歴社会で、良い成績を取るために夜2時まで勉強し、朝5時に起床する生徒も多いです。理科を勉強する理由を尋ねると、「良いキャリアにつきたいから」「試験で良い点数を取りたいから」と回答する生徒が多いですが、それを「楽しいから！」に変えるために、任地で手に入るものを使い、派手で面白い実験をしたいです。

首都から西に2時間、ムベンデ県の中高等学校で活動中の三浦広大さん（職種：理科教育）

生徒に発言の機会を

COVID-19によりホンジュラスからウガンダに任国変更、さらに今回のロックダウンの影響で、まだ本格的に活動を開始できていません。配属先の小学校は、1クラスに100人の生徒がいるため、生徒が考えて発言する機会が限定的でした。任地に戻ったら、インプットのみならず、生徒が学んだことをアウトプットできるような授業をしたいと思います。

首都から1時間のルウェロ県の小学校で活動中の佐藤優衣さん（職種：小学校教育）　◆算数のテストの様子

◆整備されていないグラウンドを走り回る生徒

道具がない体育の授業

体育の中でもスポーツテスト、陸上、野球に取り組みたいと考えており、首都待機中に具体的な授業内容を提案できるように準備しています。任地はものも限られており、例えばカリキュラムに含まれている野球の道具は一切ないので、工夫が必要です。

ブタンバラ県（首都から2時間）の中高等学校で活動中の大田和哉さん（職種：体育）

関係作り

一つの派遣先に代々と隊員が派遣されているところもありますが、私は初代の隊員です。首都から比較的近いものの山奥にあるため、日本人や外国人は一人もいません。生徒が日本人と関わるのは私が最初で最後かもしれないので、日本に対して良い印象を持ってもらえるよう、積極的にコミュニケーションを取り、生徒や村の人々との関係作りに努めたいです。

首都から1時間のワキソ県の小学校で活動中の森田眞麻さん（職種：小学校教育）　◆村の子供たちと